

那須地域にあった加工用たまねぎの品種選定

要約

今回供試した4品種の中では「ターボ」の収量が5.1t/10aと最も優れた。また、収穫日は6月4日で、今年の梅雨入りの3日前に収穫することが出来た。

○ 展示のねらい

那須地域では冷涼な気候のため、晩生品種を用いると収穫が梅雨入り後になり、作業性の悪化や細菌性病害の発生による収量の低下が懸念される。安定した加工用たまねぎ生産のために収穫時期の異なる品種を用い、収量が安定する加工用たまねぎの品種選定をはかる。

展示内容 供試品種 ターボ、ターザン、ネオアース
対照品種 もみじ3号

○ 主な成果

「ターボ」、「ターザン」、「ネオアース」の3品種は梅雨入り前に収穫を行うことができ、換算収量は「ターボ」が5.1t/10aと最も高かった(表1)。M球以上の発生率も、「ターボ」が75.7%と最も高かった(表2)。

表1 収穫日と予想収量(調査株数:各300株)

品種名	収穫日※1	換算収量※2 (t/10a)	総収量※3 (t/10a)	平均球重 (g)
ターボ	6月4日	5.1	5.7	215.2
ターザン	6月4日	3.3	4.4	172.0
ネオアース	6月6日	2.7	4.2	173.4
もみじ3号	6月13日	4.3	5.0	215.2

※1. 品種ごとに約8割が倒伏した日から7日後を収穫日とした。

※2. 換算収量は、M球(直径7cm)以上の球重を測定し、28,000株/10aとして算出。

※3. 総収量は、S球(直径6cm)以下も含めて球重を測定し、28,000株/10aとして算出。

表2 各規格球の発生率(調査株数300株)

品種名	2L (%)	L (%)	M (%)	合計 (%)	S (%)	2S (%)	欠株 (%)
ターボ	7.7	37.7	30.3	75.7	8.3	10.3	5.7
ターザン	0.3	11.3	45.7	57.3	15.0	18.7	9.0
ネオアース	0.7	12.7	30.0	43.4	19.3	23.3	14.0
もみじ3号	7.0	29.7	22.3	59.0	5.7	19.0	16.3

※欠株は、活着不良による枯死やべと病罹病による抜取りを含む。

○ 今後の方向性

年次変動も考慮し引き続き収穫時期が早く収量性の高い品種について検討していく必要がある。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：大田原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315